

# 前回会議及び視察における意見の整理

## (目次)

### (1) 教育方法の変化への対応

○主体的・対話的で深い学び	・・・・・・・・P. 3
○特色を生かした学校づくり	・・・・・・・・P. 4
○専門教育、伝統や文化に関する教育等	・・・・・・・・P. 5
○バリアフリー・特別な配慮が必要な生徒等への対応等	・・・・・・・・P. 5
○自立的な生活の場	・・・・・・・・P. 6

### (2) 社会状況の変化への対応

○少子高齢化	・・・・・・・・P. 7
○働き方改革	・・・・・・・・P. 8
○地域連携・学校開放	・・・・・・・・P. 8
○グローバル化	・・・・・・・・P. 9
○ICT 環境	・・・・・・・・P. 9

### (3) 施設の機能向上への対応

○老朽化対策、長寿命化、変化に応じた施設	・・・・・・・・P. 11
○防災機能	・・・・・・・・P. 11
○施設の快適性（空調等の室内環境、防音、動線）	・・・・・・・・P. 12
○施設の維持管理	・・・・・・・・P. 13
○防犯対策・事故防止	・・・・・・・・P. 13
○環境問題への対応	・・・・・・・・P. 14

## (1) 教育方法の変化への対応

平成29年3月に高等学校学習指導要領が改訂され、令和4年度より年次進行で実施予定。知識の理解の質を高め資質・能力をはぐくむ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、「公共」や「理数」の新設、情報教育の充実、障害に応じた指導などが盛り込まれている新学習指導要領の内容や、平成31年4月の中央教育審議会の諮問及び、令和元年5月の教育再生実行会議第十一次提言などを踏まえ、どのような学校施設が求められているか。

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 学習の集団や学習形態・方法が多様化する中で、学習空間の枠組みそのものを捉え直す観点もあるのではないか。
- ・ どのような空間が必要か、あるいはふさわしい単位は何かなど、教育の改革とあわせて、それらにふさわしい空間についても考える必要がある。
- ・ 高等学校改革を施設の課題としてどのように捉え直すのか。
- ・ 教え方あるいは学び方と学校・教室空間の関係性については、大きなターニングポイントに来ているのではないか。
- ・ 時間や場所に縛られない個別最適化された学びが議論されている。この場に収まらない観点かもしれないが、通信制など多様な学び方への対応についても忘れてはならない視点。
- ・ 社会が大きく変わる中で、リーディングスクールとなるような新たな考え方を示すという観点と、多数を占める既存の学校をどのようにするのかという観点の両者について考えることが必要なのではないか。

### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 20名程の少人数の教室から、120人程の大教室、そして小さな会議室まで、多様なサイズの教室を準備することで、効率的・効果的な教育を行いやすい施設となっている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・ 入学人数が年により異なり、ホームベースにおいて、同フロアに異なる学年が入り込む特徴により、異学年交流が生まれている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】

## ○主体的・対話的で深い学び

### <<会議における主な委員意見>>

- ・取組をより効果的なものとするよう、学年単位や学級単位でグループ学習やプレゼンテーション等を行うためのICT環境等を整備した多目的かつフレキシブルに活用できる教室の整備が望まれる。
- ・開かれた教育課程を実現するため、地域や小中学生あるいは県外・国外との交流ができる施設・設備の整備や更新が必要。
- ・主体的・対話的な学びを進める上では、生徒と教師の間の交流を促す環境づくりも必要な視点。
- ・図書館がより情報センターとしての機能を持ち、学校の中で重要な役割を担っていく必要があるのではないか。
- ・大学に整備しているアクティブ・ラーニングスペースは、予想外の利用率をあげており、これこそがこれからの学校、学びの場所の一つの姿ではないか。

### (視察における具体的な整備事例)

- ・特別教室エリアには、活動のショーケースが設置されショールーム的な空間になっている。また、グローバル人材育成への対応やラーニングコモンズ自習室を活用した多様な学習支援が可能。【川口市立高等学校】
- ・島の学習塾と学校・町の連携による教育活動（人材育成）が行われている。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・科学技術に関する専門性の高い施設・設備を充実させるとともに、グループ学習やディスカッション等を行うことにより、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を促す学習環境が整備されるよう設計がなされている。【横浜サイエンスフロンティア高等学校】
- ・コンクリート打ち放しの廊下壁面を活用して、至る所にSSHやSGHで研究した成果の発表資料等を掲示し、生徒に興味・関心を持たせるよう工夫がなされている。【横浜サイエンスフロンティア高等学校】
- ・各教室等にはWi-Fi環境に加え、電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーンが設置されており、生徒は1人1台のタブレットを使用し、授業や諸連絡等に活用されている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・生徒が授業で栽培した農産物や加工品を販売するスペースを設けるなど開かれた学校づくりや主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫がなされている。【宮城県農業高等学校】
- ・校舎内の各所に整備された「フレキシブル・ラーニング・エリア」は、単なる居場所づくりだけでなく、生徒同士、あるいは、生徒と教員のコミュニケーションを深めるとともに、部活動の打合せなどにも活用されており、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すためにも有効。【宮城県迫桜高等学校】
- ・各教科エリアのメディアスペースにおいて、自由に閲覧ができる展示物や書籍、パソコン等が整備されており、生徒に興味・関心を持たせる工夫がなされている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】

## ○特色を生かした学校づくり

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 各学校の特色を生かした学校づくりを行うことが重要。
- ・ 広域の地域における高等学校の存在意義を考え直すべき。
- ・ 学びのニーズが多様化している中で、公立であっても小中学校以上に各校の個性化を図っていくことが重要。
- ・ 島根県では、県全体で各高校の個別化魅力化を図る取組を進めている。特に学校が拠点となって地域創生にも活かすため、県外からの入学生も積極的に受け入れている。

### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 工業高校らしく、配電盤やPSをスケルトンにして生きた教材にしている。【栃木県立宇都宮工業高等学校】
- ・ 地場の鋳物を使用したサインや床アクセントも効果的である。【川口市立高等学校】
- ・ 高校の立地する島及び地域全てが「学校」（島まるごと学校構想）であり、校舎内ではなく、学生寮、隠岐国学習センター、町が連動する形で、まなびの環境がつくられている。「学びを自分たちでつくる」という方針で運営されている学習センターに全校生徒の約80%が登録しており、土曜日の生徒の居場所となり、それをバックアップするスタッフが配置されている。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・ 総合学科高校である特色を生かし、生徒が自由に動き回ることができる回遊性が確保されるとともに、多目的かつフレキシブルに利用できるよう設計の工夫がなされている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・ 総合学科では選択授業が多く、生徒は教室移動が多くなるが、その居場所づくりのため、校舎内の各所に「フレキシブル・ラーニング・エリア」が整備され、デザイン性の高い机・椅子、ベンチが設置されている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・ 普通科と農業科の高校を統合し、総合学科高校として新設されており、その伝統も踏まえて、6つの系列が用意され、それらの教育内容を充実させるため専門的で高度な施設・設備が整備されている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・ 教科教室型として、学級活動が希薄にならないよう、ホームベースに生徒全員が座れる机・椅子を用意し、カバン等の収納用ロッカーも備えている。クラス全員で昼食がとれるほどのスペースがある。【鶴見大学附属中学校・高等学校】
- ・ 各教科エリアのメディアスペースにおいて、自由に閲覧ができる展示物や書籍、パソコン等が整備されており、生徒に興味・関心を持たせる工夫がなされている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】（再掲）

## ○専門教育、伝統や文化に関する教育等

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 専門学科、職業教育の充実のため、施設や備品を適切に更新していくことも重要。

#### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 系ごとの実習棟に最先端の機器や実験設備、測量機器などを設置し、企業と同レベルの環境で実践的な実習を行える。【栃木県立宇都宮工業高等学校】
- ・ 伝統文化を伝える施設として、茶室として使用ができる和室が整備されている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】

## ○バリアフリー・特別な配慮が必要な生徒等への対応等

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 統廃合も進み、生徒の多様化が進んでいる。特別な配慮が必要な生徒への対応や、学力等への幅に応じた習熟度別の授業への対応などについても検討が必要。
- ・ 特別な配慮を必要とする生徒や日本語を話すことができない生徒等の視点を踏まえた環境整備についても検討が必要。
- ・ 職員室のバリアフリー化は非常に重要な視点。職員の中にコーディネーターなど多様な人材が存在してくる中で、これらの人たちの居場所についても考えることが必要。島根県立隠岐島前高等学校には職員室内にコーディネーターの席が5つ、外部人材のフリー席が1つ設置されている。
- ・ EVや多機能トイレは場所、数ともに適切に整備することが必要。
- ・ 進路指導室、休憩室の設置においても場所や明るさに留意が必要ではないか。
- ・ 避難場所も含め、利用する施設の距離や経路（バリアフリー化）について配慮が必要。

#### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 生徒の相談に対応するため、カウンセリングルームを3室整備。【宮城県迫桜高等学校】

## ○自立的な生活の場

### ＜＜会議における主な委員意見＞＞

- ・ 自立的な学校生活を生徒たちが送るための空間や施設の在り方についても検討課題。
- ・ 多文化共生協働を進めるためには、寮や学校の中における食堂など、学びの中にある暮らしの視点について議論することが必要。
- ・ 中学から高校に上がる過程で成長を感じられるような施設環境といった視点についても議論できると良い。
- ・ 子ども達の生活空間としての温かさ、抛り所など、多様な空間を什器や家具、可動パーティションなどで、整備するといいい。

### (視察における具体的な整備事例)

- ・ ベンチとテーブルを備えたコモンスペースが交流を生み出す。【川口市立高等学校】
- ・ (三燈には、教員の舎監室とは別に) ハウスマスター (管理人) 室があり、学生が自治的に空間を運営 (清掃や使用ルール) している様子がみられた。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・ 県が整備をした寮に加えて、地元の海士町が整備をした寮も活用し、学習や生活の環境づくりに工夫がなされている。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・ 学校図書館について、生徒がくつろいで本を読むことができるソファや椅子、また、海が見えるカフェ風の席を設置するなど、生徒が利用しやすい工夫がなされている。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・ カフェテリアが充実しており、生徒の憩いの場となっている。【横浜サイエンスフロンティア高等学校、川口市立高等学校、聖光学院中学校高等学校】
- ・ 3つの教室を向き合せて配置し、その間の空間に生徒用のロッカーを配することで、各学年の生徒の普段の交流が生まれやすい空間となっている。【聖光学院中学校高等学校】

これら以外に、検討すべき論点はどのようなものがあるか。

### キーワード

STEAM 教育、言語能力、理数教育、道徳教育、外国語教育の充実、主権者教育・消費者教育・防災・安全教育、キャリア教育

## (2) 社会状況の変化への対応

少子化や働き方改革等の社会状況の変化への対応として、どのような学校施設が求められているか。

### <<会議における主な委員意見>>

- ・社会が大きく変わる中で、リーディングスクールとなるような新たな考え方を示すという観点と、多数を占める既存の学校をどのようにするのかという観点の両者について考えることが必要なのではないか。(再掲)

## ○少子高齢化

### <<会議における主な委員意見>>

- ・各学校の特色を生かした学校づくりを行うことが重要。(再掲)
- ・高校施設のダウンサイズあるいは、一層の拠点化を図る視点について考えることが必要。
- ・特に地方都市や農山漁村地域において高校の選択肢が狭まることによる学生寮の重要性が高まるのではないかと。空間整備を考える上で、そのような生活側面についても検討していく必要がある。
- ・学生寮が増えてきており、高等学校と通学圏や地域との関係性が多様になっている。
- ・各施設の稼働率が低くならないよう設計や活用ができるのが望ましい。
- ・島根県では、県全体で各高校の個別化を図る取組を進めている。特に学校が拠点となって地域を創生するため、県外からの入学生も積極的に受け入れている。(再掲)

### (視察における具体的な整備事例)

- ・ホールやカフェテリアなど、外部利用を可能にするため、廊下に扉を設け、施錠できる場所を設置するなど、地域利用なども可能な設計を行っている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・地域で生まれ育った生徒のほかに、県内外からの入学生及び海外からの短期留学生も積極的に受け入れており、グローバルかつローカルな視点をもった人材育成が行われている。【島根県立隠岐島前高等学校】

## ○働き方改革

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 教職員スペースの在り方あるいは、教職員スペースを構成する要素についても議論することが必要。
- ・ 職員室のバリアフリー化は非常に重要な視点であり、職員の中にコーディネーターなど多様な人材が存在してくる中で、これらの人たちの居場所についても考えることが必要。（再掲）
- ・ 職員室にゆとりや休憩室等の整備が必要。
- ・ 科目ごとの教員の連携と、学年ごとの教員の連携の両立ができるのが望ましい。
- ・ 講師がいる場合は講師と教員の連携も視野に入れた施設配置、柔軟に対応できる施設配置が望ましい。
- ・ ペーパーレスも含めて試験問題等の管理が行える空間があることが重要。

#### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 職員室の廊下側は透明ガラスであり、開放感や一体感を感じる。【川口市立高等学校】
- ・ 専任、講師に関わらず、一つの職員室で互いの連携を図っている。また、全職員を収容しても十分な広さが確保されている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・ 教員がグループで集まって打ち合わせを行いやすいオープンな会議室を数多く設置していることに加え、休憩室も付設されている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・ 出欠管理や学校からの連絡をメールで行うシステムを導入し、教員の負担軽減につなげている。【聖光学院中学校高等学校】

## ○地域連携・学校開放

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ 学区が広く、小中とは地域や保護者の関わり方が大きく異なる。社会との連携を進めていく上で、各学校がどのような役割を担うのか明確化することが重要。
- ・ 高校は公立であっても地域住民に卒業生が多いわけではないことを踏まえ、周辺あるいはより広域の地域における高等学校の存在意義を考え直すべき。
- ・ 都道府県立の高等学校は、小中学校と異なり、地域の公共施設全体のマネジメントとあわせて整備を検討することが難しく、高校だけで課題を解決しなければならない状況が見られる。

#### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 生徒の寮の設計には、地域の方々も活用できるスペースを設けるなど、地域の学校としての工夫がみられる。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・ 島の学習塾と学校・町の連携による教育活動（人材育成）が行われている。【島根県立隠岐島前高等学校】（再掲）

- ・ホールやカフェテリアなど、外部利用を可能にするため、廊下に扉を設け、施錠できる場所を設置するなど、地域利用なども可能な設計を行っている。【聖光学院中学校高等学校】  
(再掲)
- ・カフェテリアと隣の教室との間の間仕切りが可動式であり、大空間の確保が可能。【聖光学院中学校高等学校】
- ・保護者や卒業生の懇親会を開催できるスペースを確保している。【聖光学院中学校高等学校】
- ・大学の施設（グラウンド、図書館）の利用や、大学での体験学習など、大学との連携も行われている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】
- ・全体的に開放的な印象を与える施設であり、生徒が授業で栽培した農産物や加工品を一般に販売するスペースも設けてあるなど、地域の方々との交流等もしやすいよう整備されている。【宮城県農業高等学校】

## ○グローバル化

### (視察における具体的な整備事例)

- ・農業のグローバル化に対応するため、農畜産物の生産工程管理において HACCP や GAP に対応できるよう整備されており、衛生管理や品質管理が徹底された専門性の高い施設整備が行われている【宮城県農業高等学校】 (再掲)
- ・地域で生まれ育った生徒のほかに、県内外からの入学生及び海外からの短期留学生も積極的に受け入れており、グローバルかつローカルな視点をもった人材育成が行われている。【島根県立隠岐島前高等学校】 (再掲)

## ○ICT 環境

### <<会議における主な委員意見>>

- ・ICT 機器が導入されていく中で、教室空間にとらわれない授業や学習形態なども生まれるなか、教育・学習方法と空間の関係性について議論する必要。
- ・コンピュータベースで行う試験など新しい時代の教育に対して、設備や通信網をどのように整備するのかは、学校現場における課題の一つ。
- ・高校に関しては、小中と同等以上の ICT 環境の整備をベースに考えることが必要。
- ・取組をより効果的なものとするよう、学年単位や学級単位でグループ学習やプレゼンテーション等を行うための ICT 環境等を整備した多目的かつフレキシブルに活用できる教室の整備が望まれる。(再掲)
- ・教師が ICT 機器を活用した教育ができるようになるための研修環境の整備。
- ・ICT 環境整備の方向性については、様々な選択肢があることを指針の中でも示せると良い。
- ・開かれた教育課程を実現するため、地域や小中学生あるいは県外・国外との交流

ができる施設・設備の整備や更新が必要。（再掲）

- ・ Wi-Fi 整備には、セキュリティを確保しつつ十分な通信速度の確保が望ましい。
- ・ LAN ケーブルの破損が多く、有線での設置は課題が多いのではないかな。

**（視察における具体的な整備事例）**

- ・ 各教室等には Wi-Fi 環境に加え、電子黒板機能付き短焦点プロジェクターとスクリーンが設置されており、生徒は1人1台のタブレットを使用し、授業や諸連絡等に活用されている。【聖光学院中学校高等学校】（再掲）
- ・ 各教科エリアのメディアスペースにおいて、自由に閲覧ができる展示物や書籍、パソコン等が整備されており、生徒に興味・関心を持たせる工夫がなされている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】（再掲）

※このほか、各教室等への Wi-Fi 整備やプロジェクター設置などは複数校において見られた。

**これら以外に、検討すべき論点はどのようなものがあるか。**

### (3) 施設の機能向上への対応

第二次ベビーブームを受けて大量に建設された学校施設の老朽化や、地震や豪雨等の頻発化、多様化、甚大化する自然災害への対応など、学校施設を取り巻く課題に対し、どのような機能向上が求められているか。

#### ○老朽化対策、長寿命化、変化に応じた施設

##### <<会議における主な委員意見>>

- ・老朽化が進行している学校では、修理や更新を行うことで手一杯という状況もあるため、それらの抜本的な解決方法を考える必要がある。
- ・専門学科、職業教育の充実として、施設や備品を適切に更新していくことも重要である。(再掲)
- ・多くの高校で施設の老朽化が進んでおり、その長寿命化に取り組む中で、限られた予算を有効に活用して、効果的な教育・学習が行えるよう工夫していく必要がある。
- ・耐久素材や耐汚素材の使用等メンテナンス頻度を削減できる材料の使用を検討するとよい。

##### (視察における具体的な整備事例)

- ・教室の壁は、工事により撤去及び設置が可能としており、将来、教室配置の変更にも対応ができるなど、柔軟で拡張性の高い設計である。【聖光学院中学校高等学校】
- ・教室と廊下がカーテンで仕切られていたり、吹き抜けを多用し天井高に変化をつけたりするなど、随所において、フレキシブルで開放的な空間が用意されている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・教科教室が不足した際の割り当て教室の調整用として、特定の教科の利用に限定しない室を複数設定して対応している。【鶴見大学附属中学校・高等学校】
- ・入学人数が年により異なり、ホームベースにおいて、同フロアに異なる学年が入り込む特徴により、異学年交流が生まれている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】(再掲)

#### ○防災機能

##### <<会議における主な委員意見>>

- ・戦略的に防災部局と連携していく視点も必要。
- ・防災や安全、コミュニティスクールとしての環境整備の観点も重要。
- ・生徒の安全確保計画の部分強化していくことが必要。

- ・津波対策や河川氾濫対策、その場合の広い地域との連携等の検討も必要。
- ・避難場所も含め、利用する施設の距離や経路（バリアフリー化）について配慮が必要。（再掲）

#### （視察における具体的な整備事例）

- ・大講義室をはじめ、地域・社会に開放しており、帰宅困難者への対応も可能。【栃木県立宇都宮工業高等学校】
- ・一足制であり、学校開放や避難所としても効果的。【川口市立高等学校、聖光学院中学校高等学校】
- ・高台にあり、緊急時避難所として認知されている。【島根県立隠岐島前高等学校】
- ・大地震の際に、壁が落下しないよう校舎の外壁にはレンガが使用されるとともに、ガラスが落下しないようベランダにテラスが設けられており、安全面の工夫がなされている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・職員室に停電の際にも活用可能な電源が確保されている。【聖光学院中学校高等学校】

## ○施設の快適性（空調等の室内環境、防音、動線）

### <<会議における主な委員意見>>

- ・熱中症対策として冷房設備の設置が必要。
- ・教科教室型のホームページの用途と広さを適切にする必要がある。
- ・男子生徒が多い学校では、教室の狭さを感じる可能性がある。

#### （視察における具体的な整備事例）

- ・中庭やピロティといった多目的スペースを中央に置き、回廊型の校舎とすることで、複数の動線を確保しながら、スムーズな移動を可能にしている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・季節風を上手に取り入れた設計で、暑い夏でも風が通るよう、ガラス戸の配置が工夫されている。また、ピロティにも、太陽光が届くよう設計されている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・校舎に囲まれた中庭とすることにより遮音性を確保し、学校行事や文化祭等で使用する際の近隣への防音対策にもなっている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・壁面にガラスが多用されており、自然光を十分に取り入れることができ、明るい雰囲気となるよう工夫されている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・暖房方式についても様々な工夫がなされているほか、生徒のベンチの下が吹き出し口になっているなど、スペースの有効活用がなされている。【宮城県迫桜高等学校】
- ・生徒の円滑な教室移動に資するよう、教科を示す文字や教科ごとに色を変えるなどサインの工夫がなされている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】
- ・教室によっては、天井をオープンにしており、開放的な印象を生徒に与えるよう工夫されている。（高さ制限が厳しい中での工夫）【鶴見大学附属中学校・高等学校】

- ・段差のある敷地をうまく利用し、地下にも日光が取れるような間取りとしている。【鶴見大学附属中学校・高等学校】
- ・学校図書館について、生徒がくつろいで本を読むことができるソファや椅子、また、海が見えるカフェ風の席を設置するなど、生徒が利用しやすい工夫がなされている。【島根県立隠岐島前高等学校】（再掲）

## ○施設の維持管理

### <<会議における主な委員意見>>

- ・耐久素材や耐汚素材の使用等メンテナンス頻度を削減できる材料の検討も有効。（再掲）
- ・LAN ケーブルの破損が多く、有線での設置は課題が多いのではないかと。（再掲）

#### （視察における具体的な整備事例）

- ・床仕上げには1足制にうまく対応したゴムシートが貼られ、安全性を確保している。【川口市立高等学校】
- ・施設・設備はPFI事業により整備されており、その良さを活かした維持管理がなされている。【横浜サイエンスフロンティア高等学校】
- ・校庭は人工芝が敷かれており、近隣への砂埃飛散防止の配慮がなされている。【聖光学院中学校高等学校】
- ・廊下の天井は、配線や配管等でメンテナンスがしやすいよう、建材で全て覆うのではなく、木のルーバーが設置されている。【宮城県農業高等学校】
- ・半屋外スペースは鳥や虫による被害や汚れの対策が課題。【川口市立高等学校】
- ・快適性や解放感を実現するための材料（例：ガラス壁面、ウッドデッキ等）の検討の際は、維持管理が行いやすいかどうか、維持管理コストはどうかの検討も必要。【宮城県迫桜高等学校】

## ○防犯対策、事故防止

### <<会議における主な委員意見>>

- ・地域に開放する部分と開放していない部分がある場合は利用を考えて配置や扉の設置を行う必要がある。
- ・管理棟と教室棟等の棟が分離されている場合、十分な接続が行えている必要がある。
- ・警備室の位置や数、各棟との距離が適切であるか検討が必要。

#### （視察における具体的な整備事例）

- ・実験室の管理者がはっきりしており、また教員間の連携・引き継ぎの仕組みが整っている。【横浜サイエンスフロンティア高等学校】

- ・ 駐車場が広く、生徒の動線とも分離され、安全性を考慮した配置。【宮城県農業高等学校】

## ○環境問題への対応

### (視察における具体的な整備事例)

- ・ 屋上緑化や太陽光発電の設置のほか、雨水の再利用など、環境や省エネルギーに配慮した工夫がなされている。【聖光学院中学校高等学校】

これら以外に、検討すべき論点はどのようなものがあるか。

## キーワード

複合化